NTJU News

発行所：ヌヴォトン テクノロジージャパン労働組合
住　所：京都府長岡京市神足焼町1番地
発行人：山本　明広　　編集人：小田　一義

2023-No.3
2024年 2月 29日

2024年総合労働条件改善闘争 速報①

CONTENTS

・NTJU―NTCJ　No.1交渉
・第2回 職場統括委員会
・闘争日程

成長軌道へ―「人への投資」を求め要求書を提出

冒頭、山本執行委員長より、小山社長へ今闘争の要求に関する申入書を提出した後、組合より要求内容についての説明を行い、会社からは、現時点での認識について表明がされました。

1　NTJU － NTCJ　No.1交渉　2月22日(木) 9時30分～

組合　ステージ転換を図る「人への投資」で中長期的な会社の魅力向上を

労使交渉にあたり、３点申し上げたい。

（１）社会的要請が極めて高い要求

今次闘争の組合要求については、マクロ視点、社会的要請の占める割合が大きい。要求の本質には、少子高齢化、労働人口減少、デフレマインドなどの社会課題に対する労働組合の果たすべき役割への問題意識がある。連合では『みんなで賃上げ。みんなでステージを変えよう！』を今期のスローガンに掲げている。「みんなで」とは、様々な働き方をする労働者全員のことであり 、「ステージを変える」とは、経済を好循環サイクルへ移行させ、賃金も物価も経済も安定的に上昇する、デフレマインドからの完全脱却のステージという意味が含まれている。

（２）中長期的に会社の魅力を底上げする取り組みを

ミクロ視点、職場目線では、昨年、初任給と若年層の月例賃金について、重点的に人への投資をしていただき、人材採用やワークモチベーションの維持向上に寄与していると考えている。今交渉では、６０歳以降の再雇用制度の処遇改善について要求する。労働人口減少の状況において、魅力ある働き方、処遇とは何か、論議から始めたい。再雇用制度も働く者みんなでステージを変えるという目的に合致し、中長期的にも会社の魅力の底上げになる。

（３）労使ともにＯＮＥ　ＴＥＡＭの一体感づくりを

労働組合で先日行ったイベントで総勢４００名の従業員と家族に参加いただき、クライマックスでは、参加者が一体感で包まれるシーンがあった。この一体感を日常の職場で実現できれば、会社も個人も大きな成長につながると感じた。交渉では、労働条件や処遇だけでなく、楽しく働く、ＯＮＥ　ＴＥＡＭで働く、心理的安全性の高い職場づくり、風土づくりも労使で論議していきたい。引き続き真摯な論議をお願いする。

会社　挑戦を続ける従業員に感謝 生産性を高める「人への投資」を

ＮＴＣＪ発足以来スピード感を持って経営してきたが、会社、従業員共に相当変わってきたと実感している。これは従業員の協力あっての成果であり、心から感謝申し上げる。

しかし、これからは生産性をもっと上げなければいけないと感じている。生産性向上のために企業が行うこととしては、「従業員への投資」と「ＡＩへの投資」がともに大事である。デジタルの波に乗れなければ、会社は成長しない。働き方のレベル・仕事の内容を変えることと生産性の指標をつくることで定量的に一人一人が成長を実感でき、会社と個人が共に成長するよう取組んでいく。

２０２３年度はグローバルでの時間軸をとらえ、先手を打つ活動を実践してきた。Ｏｎｅ　ＮＴＣに向け、これまではコーポレートレベルでの統合を実行してきたが、さらなる進化に向けたオペレーションレベル（職能ごと）で効率を上げるインテグ２．０に現在取り組んでいる。その他、グローバルの市場動向を捉えた拠点整備、プレスリリースを通じた認知度向上の取組みなどにより、数多くのビジネス成果が出始めてきている。

ただし、本年度の経営状況は、委託費、材料費の高騰による影響が残る中、昨年度の半導体不足から一転、流通在庫増により、今年度下期以降は、非常に厳しい見通しである。これまで３年連続の黒字、１０００億円の販売を目指してきたが、年始の能登半島地震の影響もあり営業利益は予断を許さない状況である。

加えて、６０歳以降の雇用政策におけるＮＳＰ社員の処遇等については、高いモチベーションで活き活きと働けるような施策を引き続き考えていきたい。

最後に、今春季交渉においては、ＡＩの劇的変化による将来の生産性向上の必要性を踏まえ、個人と会社が持続的に成長できるための「人への投資（安心して働ける・活躍できる）」について、真摯に考え対応していきたい。組合のご理解とご協力をお願いする。

2　第2回 職場統括委員会　2月16日(金)17時30分～

2024年総合労働条件改善闘争議案　満場一致で可決

２月１６日のＮＴＪ労組第２回職場統括委員会において２０２４年総合労働条件改善闘争議案について満場一致で可決確認されましたので報告します。

山本執行委員長挨拶（要旨）

２０２４闘争では、組合上部団体である連合が５％以上の賃上げ、金属労協は１０，０００円以上、電機連合は１３，０００円以上という賃上げ要求方針があり、ＮＴＪ労組としては１３，０００円の要求に至った。ＮＴＣＪ発足以来継続的な賃上げを実現しており、昨年は９，０００円という高水準の要求に対して満額の回答であったが、この賃上げの流れを確実なものにするための要求水準である。

昨年の半導体不足の市況から一変し、直近の経営環境が厳しさを増しており、会社との交渉は楽観できない状況である。しかしながら、ＮＴＪ労組としては、過去四半世紀における日本のデフレマインドや社会構造を再び成長軌道に変えるラストチャンスであると考えており、経営者側からも意見提起がなされた。また、労務費を適正に価格転嫁するための価格交渉に関する指針や、いわゆる年収の壁・支援強化パッケージなど、行政側も賃金が上がる環境づくり、サイクルづくりの側面支援をしている。まさに、政労使が人への投資を基点として、日本の経済・社会構造を変えていこうという春闘であり、マクロ視点の強い社会的視座にたった要求となっている。

ＮＴＪ労組は、この賃上げが経済の好循環を促す社会的な責任を果たし、グローバル水準で勝ち抜いて会社の存在価値を上げ、かつ、企業の持続可能性を担保するための人への投資であることを主張して交渉を展開していきたい。

春闘の交渉を行うのは執行部であるが、結果は全組合員で負うことになる。ぜひ組合員の皆さんにおかれましても交渉状況に着目いただき、職場からの交渉のサポート、ご意見をいただきたい。

未来につながる、未来につなげる春闘にしていきたいと考えているので、よろしくお願いします。

3　闘争日程

２月２２日（木）	Ｎｏ.１交渉（要求提出）
２６日（月）	選挙管理委員会（スト権移譲投票開始）
３月　７日（木）	Ｎｏ.１縮小交渉
１２日（火）	Ｎｏ.２縮小交渉
１５日（金）	Ｎｏ.３縮小交渉
１８日（月）	Ｎｏ.４縮小交渉
２１日（木）	Ｎｏ.５縮小交渉
２２日（金）	Ｎｏ.２交渉（回答指定日）
４月２３日（火）	第３回職場統括委員会（闘争集約）

全員の意思結集をスト権移譲投票に示そう！

2024年総合労働条件改善闘争要求を決定し、各職場においてスト権移譲投票（電子投票）が実施されています。スト権移譲投票は、ＮＴＪ労組へ無期限のスト権を委譲するものです。スト権移譲を高率で確立することが、私たちの要求に対する期待と決意の高さを示すことになります。

交渉は、平和交渉・平和解決を基本に最大限の努力を行いますが、交渉の展開・状況によっては、いかなる事態にも対応ができる万全の体制固めが必要です。